



浜松復興記念館

「復興」(活用)プロジェクト

静岡文化芸術大学

目次

1, 概要(プロジェクトの目的を含む)	…P2-P3
2, 現状の認知度調査	…P4-P6
3, 親しみのある施設にするための問題点と改善案	
① 広報活動	…P6-P8
② 地域連携・学校連携	…P8-P12
③ 関連事業	…P12-P14
4, 満足してもらうための展示改善案	…P14-P18
5, まとめ	…P18

(右)浜松復興記念館 展示室の様子
(2021年12月10日撮影)



1, 概要

(1) プロジェクトの目的

浜松市民の間でも認知度が低い浜松復興記念館を、もっと市民に親しみやすく、利用しやすく、学校教育でも活用できる施設にすることを目的とする。

(2) 対象



(左)浜松復興記念館 正面入り口
(2021年12月10日撮影)

名称：浜松復興記念館

所在地：浜松市中区利町 304 番地の 2

休館日：月曜日(祝日と重なった場合は翌日)

12月29日から1月3日、国民の祝日の翌日

開館時間：午前9時から午後5時

会議室・和室利用時間：午前9時から午後9時30分

入館料：無料

(会議室(多目的スペース)、和室の利用には料金がかかる)

駐車場：なし

近隣の有料駐車場を利用(栄町パーキング 60分 200円(最初))

→当館にて駐車券に押印で100円割引あり

(3) 施設概要

① 設立経緯

戦後いち早く着手した復興土地区画整理事業が、昭和58年3月に終了し、この事業の終了を記念して、昭和63年に開館した。

② 設立目的

浜松の今日の発展の支えとなっている復興の記録及び当時の市民の姿を保存・展示し、忘れることのできない浜松大空襲や市民生活、文化、街並みの変遷を後世に伝えるとともに、全市をあげて取り組んだ戦災復興の記録を通じて、浜

松の発展そして将来について、広く考えていただく場となることを目的としている。

③ 立地環境

- ・近くに五社神社・諏訪神社、少し離れたところに浜松市立中央図書館あり。
- ・JR 浜松駅から徒歩 10 分
- ・浜松駅バスターミナル 3 番のりば「西じゅんかん」、2 番のりば「掛塚さなる台」線乗車「教育文化会館」下車徒歩 2 分

(4) 指定管理者

平成 17 年(2005) 財団法人浜松市文化振興財団
平成 18 年(2006)4 月 1 日より指定管理者制度導入

平成 24 年(2012)4 月 1 日～	公益財団法人浜松市文化振興財団
平成 27 年(2015)4 月 1 日	株式会社 旭ビジョン
平成 30 年(2018)3 月 31 日	
平成 30 年(2018)4 月 1 日	復興記念館管理運営グループ
令和 5 年(2023)3 月 31 日	

(5) 施設ホームページ

指定管理者によるホームページ [浜松復興記念館 | 静岡県 \(fukkoukinenkan.com\)](http://fukkoukinenkan.com)
浜松市によるホームページ [浜松復興記念館 / 浜松市 \(city.hamamatsu.shizuoka.jp\)](http://city.hamamatsu.shizuoka.jp)

(6) 展示内容・施設内容

1 階 展示室

浜松の戦争による被害と戦後の復興の流れを、展示品を用いて紹介している。具体的には「戦時体制下の浜松」「立ち上がる浜松」「躍進する浜松」の 3 つの分野に分けて展示されており、当時の生活用品や実際の爆弾の破片、模型や写真を用いて分かりやすく展示している。

2 階 会議室・和室

一般の人々が会議や研修、講座など幅広く利用できる場所として、会議室と和室が設置されている。利用開始時間は午前 9 時から午後 9 時 30 分となっている。会議室や和室の貸出同様有料ではあるが、備品物品貸し出しや会議・イベント用のケーターリングサービスも備えており、充実した活用スペースとすることができる。

2. 現状の認知度調査

(1) 調査方法

「アンケート調査」

静岡文化芸術大学の学生を中心とした浜松市民を対象に浜松復興記念館の認知度をアンケートによって調査した。

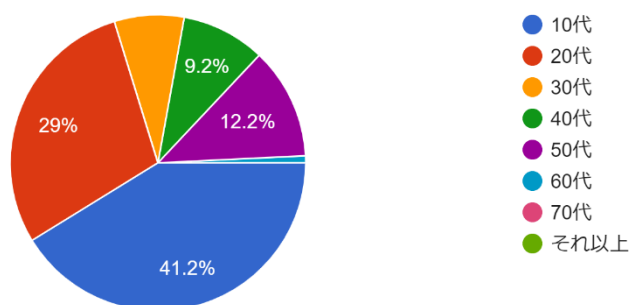
(2) 調査結果

アンケート回答者：131人

アンケート実施期間：2021/12/17～2022/1/28

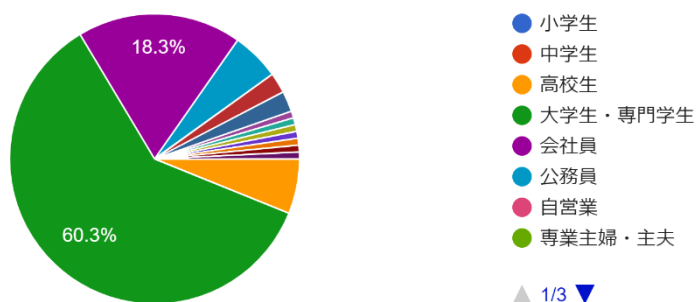
1. あなたの年齢

131件の回答



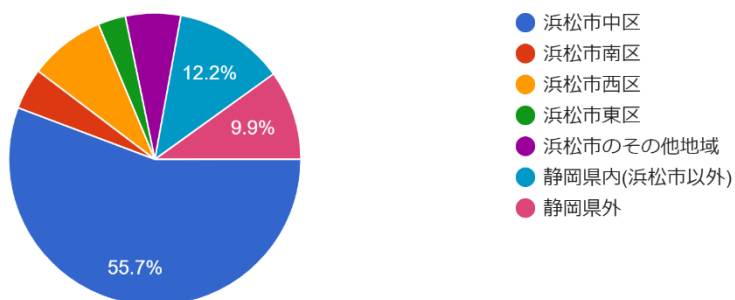
2. あなたの職業

131件の回答



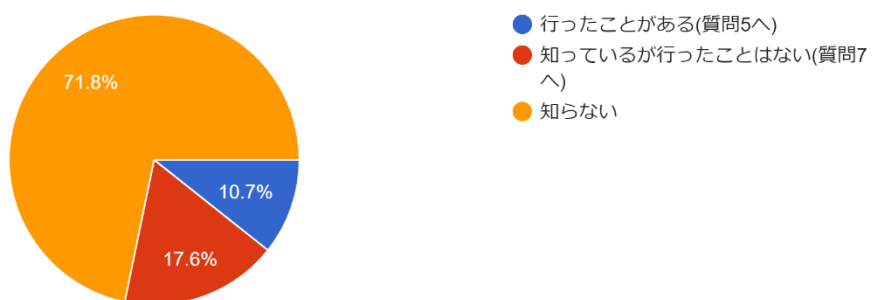
3. 住んでいる地域(下宿を含む)

131 件の回答



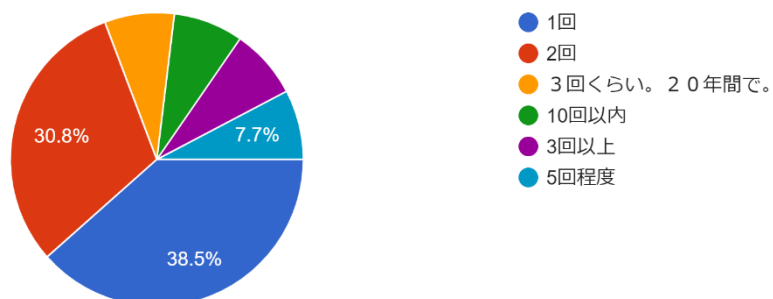
4. 浜松市復興記念館について

131 件の回答



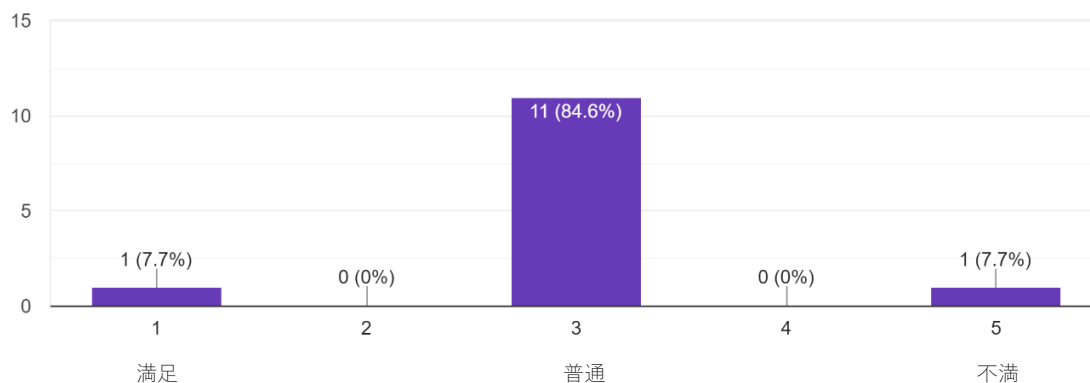
5. (質問4で「行ったことがある」と答えた方)訪れた回数

13 件の回答



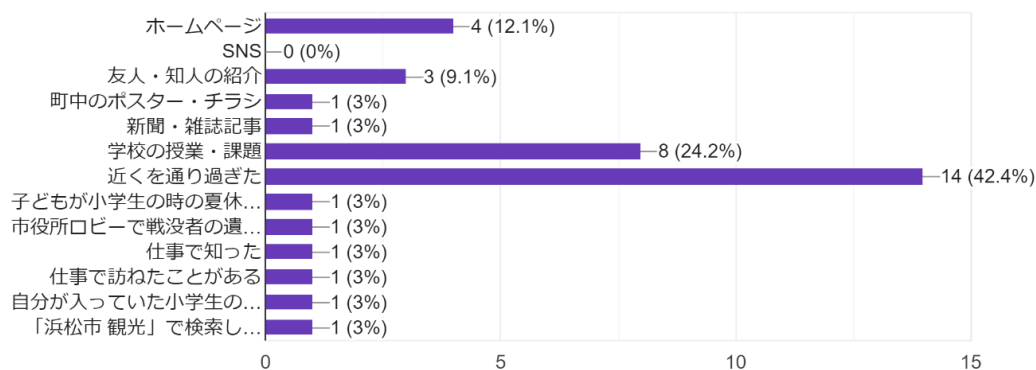
6. (質問4で「行ったことがある」と答えた方)満足度

13件の回答



7. (質問4で「行ったことがある」、知っている...とはない」と答えた方)何でこの記念館を知ったか

33件の回答



※上記で表示できていない箇所は以下の通り

- 「子どもが小学生の時の夏休みの課題のため」
- 「市役所ロビーで行われていた戦没者の写真展示」
- 「自分が入っていた小学校の街中探索」
- 「『浜松市 観光』で検索して」

※ 以上の調査結果より、浜松復興記念館は浜松市の中心地に位置しながら浜松市民の認知度が非常に低いことがわかる。

3. 親しみのある施設にするための問題点と改善案

(1) 広報活動

① 問題点

- ・施設周囲に案内が少ない
- ・HP が2つ存在するが、期間展示の告知が指定管理者のページのみなど、情報にバラつきがある。
- ・Twitter が機能していない(フォロー/フォロワー0件)
- ・他の文化施設・学校等にチラシ・ポスターが見当たらない。

② 改善案

ア, 案内標識(サイン)を増やす

- ・旧東海道沿いや五社神社の参道付近にも案内を増やすことが望ましい。



(左) 設置場所の例
(赤丸で囲ってある場所)



(左) 栄町の角にある案内標識
(2022年1月20日撮影)
現状見つかる案内標識は栄町にあるこれのみ。

イ, 期間展示の広報を市のHPでも行う

- ・市のHPと指定管理者のHPのどちらでも同様の情報を得られるようにする。
- ・臨時休館案内などを随時更新する。

ウ, SNSの実働

- ・Twitterを活用
- 浜松市が運営している文化施設のアカウントのフォローやリツイート

を行うなど。

- ・ Instagram のアカウント作成
 - ・ HP にも SNS のリンクを貼り、そのページに飛べるようにする。
- 期間展示や臨時休館などの情報を随時更新することが望ましい。

エ、他の文化施設・学校等にチラシ・ポスターを設置する

〈設置場所案〉

- ・ 浜松市博物館
- ・ 浜松市美術館
- ・ 楽器博物館
- ・ アクトシティ
- ・ クリエイト浜松
- ・ 浜松市市民共同センター
- ・ 地域情報センター
- ・ 鴨江アートセンター
- ・ 木下恵介記念館
- ・ 浜松市立の小学校、中学校、
- ・ 浜松市内の高等学校、大学施設
- ・ 浜松市立の図書館
- ・ 遠州鉄道第一通り駅

(2) 地域連携・学校連携

① 教育連携

ア、現状について

「例年なら五、六月だけで、小学校を中心に二十数校、計千五百人ほどの団体利用があるが、今年は二校のみ。今後の予約も秋に四校あるだけだという。」 — 中日新聞「コロナの影 浜松復興記念館、児童団体利用の激減」2020年8月1日 (<https://www.chunichi.co.jp/article/97749>)より引用

コロナ禍で利用者数が落ち込む前までは小学校を中心とした連携活動が安定して行われていたことが分かる。

→中学校、高校への周知活動、団体利用の誘致

現時点では小学校の団体利用が多いと思われるが、中学校や高校からの利用を増やすことを目指した取り組みも必要なのではないかと考えられる。

イ、よりよくするための提案（昭和館の事例から）

昭和館…東京都にある戦中、戦後の国民生活の労苦を後世に伝えるために設立された博物館。日本遺族会が運営を受託している。

昭和館が行っている事業の中から、復興記念館でも取り入れるべきと考えた事例を挙げる。

① 学校教諭を対象とした戦争、復興教育のレクチャー

昭和館では学校の教師や教育委員会の人などを対象に、授業や校外学習以外での利用方法を紹介する「教員のための博物館体験」という事業を行っている。常設展示の解説ツアーやバックヤードツアー、貸し出しキットの紹介と展示などが主な内容である。

このような事業を通して学校教諭に展示を見る上でのポイントを伝え、子どもたちにどのように戦争や浜松の復興について教えればいいのかレクチャーすることが出来る。また事前に打ち合わせをすることで、校外学習で訪れた際にも充実した活動を行うことが出来ると考えられる。

(右) 出典:教員のための博物館体験 | 昭和館
(<https://www.showakan.go.jp/events/teacher/index.html>)

The poster is titled "教員のための博物館体験 昭和館を授業で活用!" (Teacher's Museum Experience: Utilizing Showakan for Lessons!). It lists dates for the event: 令和元年 (2019) 7月25日 (木)・7月31日 (水)・8月22日 (木). A section titled "昭和館って?" provides background information: Showakan is a museum established in 2019 to commemorate the 70th anniversary of the end of WWII, featuring a permanent exhibition of 150,000 items. It is open to elementary school 3rd and 4th graders, high school students, and social studies teachers. The main body of the poster details the event's location (Showakan, 1-6-1, Nishi-ku, Hamamatsu), time (2:00 PM - 4:30 PM), and target audience (elementary school teachers, high school teachers, and social studies teachers). It also lists the fee (free), application deadline (July 22nd), and contact information (03-3222-2577). A "当日のスケジュール (予定)" (Daily Schedule) is provided, starting at 1:45 PM with registration, followed by a general introduction, a 2:00 PM tour of the permanent exhibition, a 3:00 PM special exhibition tour, a 3:30 PM backstage tour, a 4:00 PM kit introduction, and ending at 4:30 PM with a Q&A session.

② 所蔵資料の貸し出し

昭和館では所蔵している実物資料、グラフィックパネル、体験談を集めた証言 DVD などをパッケージ化し個人や学校に貸し出すという事業を行っている。資料を貸し出す形であればコロナ禍でも復興記念館の持つ資料を活用し浜松市の戦争や復興について学んでもらうことが出来る。施設に訪れることが難しい人、施設の存在を知らない人へのアウトリーチ活動としても実施してみてはどうだろうか。

(上) 出典：資料の貸出 | 昭和館
<https://www.showakan.go.jp/information/rental/index.html>

復興記念館では証言 DVD の貸し出しが行われているが、軍用手票のようなパネル式の展示なども貸し出しに向けた資料なのではないかと思われる。学校の教室などに持ち込み授業に活用出来れば、児童・生徒に戦争や復興のことをより分かりやすく教えることが出来ると考えられる。



(上)軍用手票(右)DVD 貸出案内
 (2021年12月10日撮影)



パッケージ化
貸し出し

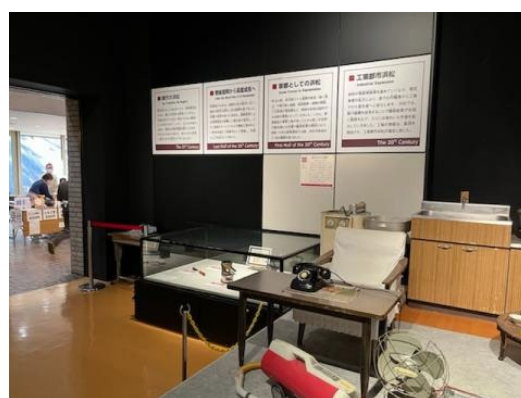
② 地域・他施設との連携

ア、現状について

復興記念館のチラシ、ポスター、リーフレットなどが浜松市博物館や市内図書館等に配架されておらず、市民への周知活動や他施設との連携活動が不十分なのではないかと考えられた。

→特に浜松市博物館と復興記念館は浜松市の戦前・戦後の歴史を伝えるために補完し合うべき存在である。しかしながら浜松市博物館の展示スペースに復興記念館へと繋がる案内が無い。

(右) 浜松市博物館展示室
戦後のブースに復興記念館の
案内があることが望ましい



イ、よりよくするための改善案

① 浜松市が復興記念館と他施設との連携をサポート

復興記念館は指定管理者制度によって運営されており、そのために他施設との連携が活発に行えていないのではないかと考えられた。よって他施設との橋渡し役を浜松市が担うべきなのではないかと考えられる。

② 浜松の歴史を学ぶモデルコースの作成、紹介

浜松市が主体となって浜松の歴史を学ぶモデルコースを作成し、HPや市内各施設で紹介、また校外学習のコース例として学校教諭等に案内するという取り組みを行うことを提案したい。例えば「浜松市博物館→浜松城→復興記念館」というコースを作れば、浜松の歴史を古代から戦後にかけて学ぶことが出来る。

→1つの施設で完結せず関連のある施設へと繋げる仕組みを作ることによって集客率を上げ、訪れる人の浜松についての理解度を向上させることが出来ると考えられる。

③ チラシやポスター、リーフレットの配布

他施設へのチラシやポスター、リーフレットの配架は復興記念館の認知度を向上させるためにも実施が望ましい。

④ 図書館内での戦争・復興をテーマとした展示にリンク付け

浜松市内の図書館は様々なテーマに関する図書の特集展示を行っている。市内図書館で戦争や鮮度復興に関する展示を行う際、復興記念館にて実物を見たり詳しい情報を知れたりすることが出来るということを案内する掲示を行うことで、認知度向上と市民の学びの促進にも繋げられるのではないだろうか。

また復興記念館と図書館が協力して展示づくりを行い、図書だけでなく復興記念館の所蔵資料を展示することが出来れば、より充実した特集展示が出来るであろうと考えられる。

下の写真は神奈川県川崎市立中原図書館での特集展示。戦争をテーマに図書を紹介し、ガラスケース内には川崎市が宣言した「核兵器廃絶平和都市」の文書や折り鶴を展示している。



(左) 展示イメージ

出典：本が伝える戦争「若い世代に語り継ぎたい」中原区 | タウンニュース 2020年7月31日

(<https://www.townnews.co.jp/0204/2020/07/31/536714.html>)

(3)関連事業・ワークショップ

ア、現状について

過去におこなわれた事業

- ・七科約説と開明堂、浜松医学校の時代展 平成31年(2019)4月20日
- ・かっぱの縁日2019【利町青年会】 平成31年(2019)7月21日
- ・未来の平和のために！～今、あなたに伝えるメッセージ～ 平成31年(2019)12月14日
- ・秋実り～とぎみのり～【利勝会(協賛のみ)】 令和3年(2021)11月6日

- ・すいとん炊き出し【NPO法人フリースクール空(場所貸し)】令和3年(2021)12月28日
- ・浜松花いち落語会【柳家花いち/林家楽一】

→場所貸しの印象を受けるが、展覧会や落語、講義、DVD上映、ディスカッションなどは定期的に活動している。また地域イベントと密接しているため、地域イベント提携時のチャンスを狙い、イベントに来た人が参加できるワークショップを考える。その他、周辺中学校と連携する。

イ、提案するワークショップ

① 戦時中の食体験 対象：小・中学生

食べる体験会は『かっぱの縁日 2019』にて実施済みなため、これを活かして、作るころから始めるワークショップを行う。また当時の調理器具の説明も同時に行う。容器も当時の物もしくは似ているものを使用することが望ましい。



(右)浜松復興記念館の物入れ展示
(2021年12月10日撮影)

② 当時の遊び体験 対象：小・中学生

漫画、雑誌、お手玉、コマ、メンコ、羽子板、ブリキなどを遊び方や当時の様子などを紹介しながら行う。またメンコの手作り体験も行う。(制作したメンコは持ち帰ることが出来る。)

③ 当時の授業体験 対象：小・中学生

当時の教科書のコピーを用意して、その時の授業を再現して体験してもらう。この事業によって周辺の中学校との連携をはかる。

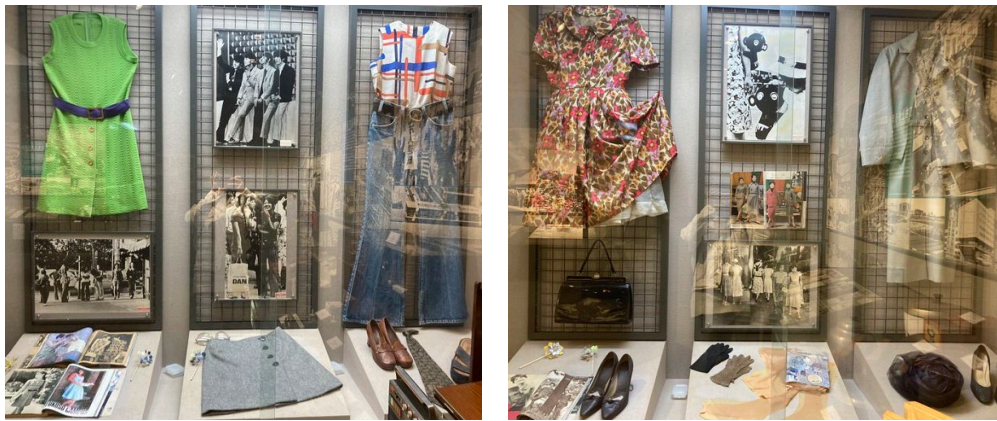


(上)浜松復興記念館の展示(2021年12月10日撮影)

これらのレプリカを用意し、漫画や雑誌、教科書はコピーやデジタル化して読めるようにすることが望ましい

④ 当時の服装体験 対象：女性・ファッションに興味のある人

当時流行していた服を複数用意して自由に選んで着てもらう。イメージはファッションショーのようなもの。またチェキで記念撮影をし、その写真は持ち帰ることが出来る。(当時の雰囲気を味わうため、写真をあえてモノクロにするのも良いと考えられる。)



(上)浜松復興記念館における服装展示(2021年12月10日撮影)

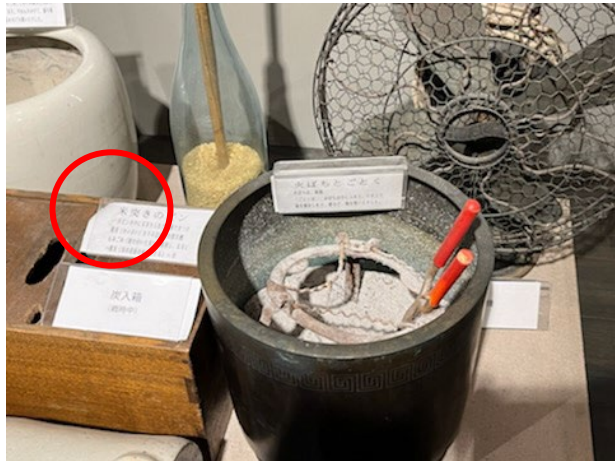
4. 満足してもらうための展示改善案

ア、現状の問題点

① キャプションの内容、設置方法

- ・キャプションがない展示物や名称のみのキャプションが多くある。
- ・展示物の上にキャプションがある。
- ・展示物の影にキャプションが隠れてしまっていて見えない。
- ・キャプションが折れ曲がっていたり、クモの巣が張っていたりする。
- ・文字の大きさやフォントが統一されていない。

(右)折れ曲がっている
キャプション(赤丸)
(2021年12月10日 撮
影)



② 映像資料の展示方法について

- ・立ち止まって映像資料を鑑賞するには順路を妨げる位置にある。
- ・映像資料を流すテレビ画面の対面する場所に鑑賞用の椅子があることで、反対側の展示ケースが鑑賞しにくくなっている。

③ 展示ケースについて

- ・教科書資料の中身が見えるように展示するべき
- ・ケース内の照明が反射して、展示物が見えにくくなっている。



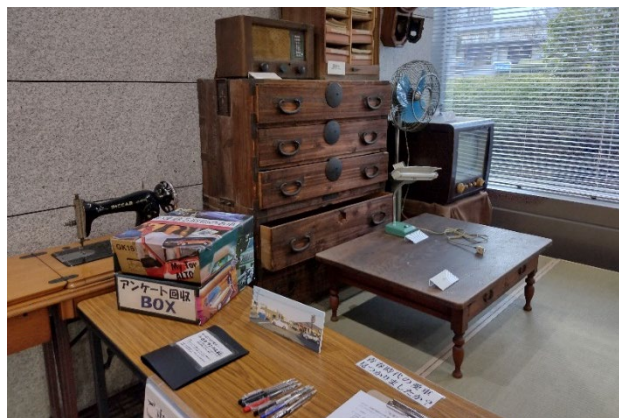
(左)展示ケース
と映像視聴用座
席
(2021年12月
10日 撮影)

④ ロビーの展示物について

- ・特に解説がないため、触れていいのかが分からない。
- ・期間限定の展示物と合わせると窮屈で展示物が閲覧しにくい。

- ・同様の展示物は浜松市博物館にもあり、展示が重複している。

(右)浜松復興記念館ロビーの展示物
(2021年12月10日撮影)



イ、改善案

① キャプションについて

- ・各展示物にキャプションをつける。
- ・文字の大きさ、フォントを統一する。
- ・作品解説には英語版、ポルトガル語版を作成

→QRコード等を活用しスマートフォンなどの電子機器で閲覧できるように対応するなど。

② 映像資料の展示方法について

- ・AVコーナー(ロビーの座敷空間や入口右手の階段付近の空間)を活用する。
- ・貸し出しの映像資料もその場で閲覧できるようにする。
- ・当時使用されていた生活用品などは使い方を解説した映像資料があるとより鑑賞が充実する。

③ 展示ケースについて

- ・教科書の展示は実物だけでなく中身をデジタルデータ化したものを別途用意する。もしくは中身を開いて展示する。
- ・展示ケース内の照明にはすりガラスを挟むなどして光量を調整する。

④ ロビーの展示物について

- ・展示物を一度整理し、AVコーナーとして活用する。もしくは浜松市博物館の展示との関連性を踏まえた解説を設ける。



(左)浜松市博物館の展示の様子
(2021年12月撮影)

ウ、複合的な改善案

①展示物を厳選する

現在の展示物から展示するものを厳選し、整理することで余裕のあるスペースが生まれ、キャプションや展示物を他の展示物の上に置く必要がなくなる。またスペースが生まれることで、より充実した内容のキャプションを設置することが出来る。

現在の時系列に沿った展示レイアウトだけでなく、テーマごとの展示を企画し、それらが定期的に展示替えされることが望ましい。

(右)浜松復興記念館 台に乗り切れていない展示物
(2021年12月10日撮影)



②展示を監修する職員を配置

現在の展示物を整理・調査し、厳選した上で展示を行い、それらは定期的に

展示替えがなされることが望ましい。そのためには展示を監修する職員が必要となる。

5、まとめ

プロジェクトメンバーの中でもあまり知られていない浜松復興記念館であったが、実際にアンケート調査をした結果、浜松市民の間でも認知度が低いことが判明した。実際に施設を訪れたプロジェクトメンバーの感想は、展示のコンテンツは良いのに、認知度が低く、訪れた人の満足度も決して高くないのが、もったいないという声が多かった。

- ・「展示物自体は面白いものが多いのに、展示方法や広報の面で損するともったいない」
- ・「中身は良いのに周り(広報とか?)が良くないため展示の良さが伝わらない。若い人や子どもたちにもっと知ってほしい内容だと感じた」
- ・「なかなか戦災復興に焦点を当てている博物館は少ないため、せっかく浜松の復興に焦点を当てているこの記念館が、認知されていないのはもったいないと感じた」
- ・「広報→認知→訪れる→満足してもらう」の好循環を得るため、せっかく訪れた人が次も訪れたいと思えるような、展示を行うのが理想である。

そこで、まず展示物のキャプションを改善するべきだと考える。先述した「4、満足してもらうための展示改善案」のところでも指摘したとおり、現時点では展示物のキャプションに不備が感じられる。キャプションは記念館を訪れた人が、展示を見る上で必ずと言ってよいほど読むものであるため、このキャプションの「文字の大きさ」や「フォントの統一」を行うだけでも、より満足してもらえる第一歩になるのではないだろうか。

プロジェクトメンバー

静岡文化芸術大学文化政策学部芸術文化学科 2 年 岩崎秋里
小野寺凜
砂原涼帆
中村美香子

講義名 芸術文化基礎 B

担当教員 田中裕二